

令和4年度 4年生(16回生4年次)看護師教育における卒業時の技術到達度自己評価集計表

■卒業時の到達度レベル

I:単独で実施できた II:看護師・教員の指導のもとで実施できた III:見学できた(学内演習で実施できた) IV:実施・見学はしないが、知識としてわかった

4年生:133名
 入力者:123名(92.4%)

項目	技術の種類	本学卒業時の到達度	16回生卒業時到達度達成割合	卒業時の到達度	I~IIIの到達度達成割合	I	II	III	IV	合計	15回生卒業時到達度達成割合	前年比R4-R3
1. 環境調整技術	1 患者にとって快適な病室環境をつくらることができる	I	79.5%	I~III	99.2%	97	24	0	1	122	85.3%	-5.8%
	2 基本的なベッドメイキングができる	I	81.3%	I~III	100.0%	100	22	1	0	123	81.7%	-0.4%
	3 臥床患者のリネン交換ができる	II	92.6%	I~III	97.5%	70	43	6	3	122	88.8%	3.8%
2. 食事の援助技術	1 患者の状態に合わせて食事介助ができる(嚥下障害のある患者を除く)	I	48.8%	I~III	99.2%	60	55	7	1	123	49.1%	-0.4%
	2 患者の食事摂取状況(食行動、摂取方法、摂取量)をアセスメントできる	I	56.2%	I~III	99.2%	68	52	0	1	121	76.7%	-20.5%
	3 経管栄養法を受けている患者の観察ができる	I	21.1%	I~III	95.1%	26	39	52	6	123	30.2%	-9.0%
	4 患者の栄養状態をアセスメントできる	II	98.4%	I~III	100.0%	80	41	2	0	123	100.0%	-1.6%
	5 患者の疾患に応じた食事内容が指導できる	II	69.7%	I~III	93.4%	15	70	29	8	122	50.0%	19.7%
	6 患者の個性を反映した食生活の改善を計画できる	II	69.9%	I~III	89.4%	26	60	24	13	123	57.8%	12.2%
	7 患者に対して、経鼻胃チューブからの流動食の注入ができる	II	17.2%	I~III	77.9%	3	18	74	27	122	14.7%	2.6%
	8 モデル人形での経鼻胃チューブの挿入・確認ができる	III	87.0%	I~III	87.0%	9	43	55	16	123	88.8%	-1.8%
	9 電解質データの基準値からの逸脱がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	73	45	1	3	122	100.0%	0.0%
	10 患者の食生活上の改善点がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	56	59	4	3	122	100.0%	0.0%
3. 排泄援助技術	1 自然な排便を促すための援助ができる	I	27.6%	I~III	95.1%	34	69	14	6	123	27.6%	0.1%
	2 自然な排尿を促すための援助ができる	I	26.0%	I~III	92.7%	32	68	14	9	123	19.1%	6.9%
	3 患者に合わせた便器・尿器を選択し、排泄援助ができる	I	20.3%	I~III	88.6%	25	56	28	14	123	22.4%	-2.1%
	4 膀胱留置カテーテルを挿入している患者の観察ができる	I	37.4%	I~III	98.4%	46	56	19	2	123	41.4%	-4.0%
	5 ポータブルトイレでの患者の排泄援助ができる	II	31.1%	I~III	78.7%	8	30	58	26	122	31.3%	-0.2%
	6 患者のおむつ交換ができる	II	97.6%	I~III	99.2%	58	62	2	1	123	99.1%	-1.6%
	7 失禁をしている患者のケアができる	II	56.9%	I~III	79.7%	18	52	28	25	123	60.3%	-3.4%
	8 膀胱留置カテーテルを挿入している患者のカテーテル固定、カテーテル管理、感染予防の管理ができる	II	60.7%	I~III	98.4%	16	58	46	2	122	54.3%	6.3%
	9 モデル人形に導尿または膀胱留置カテーテルの挿入ができる	III	80.2%	I~III	80.2%	10	26	61	24	121	79.1%	1.0%
	10 モデル人形にグリセリン浣腸ができる	III	48.0%	I~III	48.0%	4	14	41	64	123	45.7%	2.3%
	11 失禁をしている患者の皮膚粘膜の保護がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	16	43	34	30	123	100.0%	0.0%
	12 基本的な排便の方法、実施以上の留意点がある	IV	100.0%	IV	100.0%	15	14	67	27	123	100.0%	0.0%
	13 ストーマを造設した患者の一般的な生活上の留意点がある	IV	100.0%	IV	100.0%	24	45	30	24	123	100.0%	0.0%
4. 活動・休息援助技術	1 患者を車椅子で移送できる	I	71.5%	I~III	100.0%	88	34	1	0	123	79.3%	-7.8%
	2 患者の歩行・移動介助ができる	I	55.3%	I~III	99.2%	68	51	3	1	123	59.6%	-4.4%
	3 廃用症候群のリスクをアセスメントできる	I	57.7%	I~III	100.0%	71	49	3	0	123	77.4%	-19.7%
	4 入眠・睡眠を意識した日中の活動の援助ができる	I	53.7%	I~III	100.0%	65	55	1	0	121	56.9%	-3.7%
	5 患者の睡眠状況をアセスメントし、基本的な入眠を促す援助を計画できる	I	45.5%	I~III	95.9%	56	54	8	5	123	59.6%	-14.1%
	6 臥床患者の体位変換ができる	II	92.6%	I~III	99.2%	47	66	8	1	122	92.2%	0.4%
	7 患者の機能に合わせてベッドから車椅子への移乗ができる	II	82.9%	I~III	100.0%	30	72	21	0	123	75.9%	7.1%
	8 廃用症候群予防のための自動・他動運動ができる	II	74.0%	I~III	94.3%	22	69	25	7	123	66.4%	7.6%
	9 目的に応じた安静保持の援助ができる	II	91.8%	I~III	98.4%	45	67	8	2	122	82.5%	9.3%
	10 体動制限による苦痛を緩和できる	II	62.6%	I~III	87.0%	24	53	30	16	123	56.5%	6.1%
	11 患者をベッドからストレッチャーへ移乗できる	II	54.5%	I~III	89.4%	7	60	43	13	123	28.4%	26.0%
	12 患者のストレッチャー移送ができる	II	57.7%	I~III	91.1%	13	58	41	11	123	36.2%	21.5%
	13 関節可動域訓練ができる	II	43.4%	I~III	94.3%	13	40	62	7	122	50.9%	-7.4%
	14 廃用症候群のための呼吸機能を高める援助がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	17	44	45	17	123	100.0%	0.0%
5. 清潔・衣生活援助技術	1 入浴が生体に及ぼす影響を理解し、入浴前・中・後の観察ができる	I	39.8%	I~III	96.7%	49	62	8	4	123	52.6%	-12.7%
	2 患者の状態に合わせた足浴・手浴ができる	I	44.7%	I~III	95.9%	55	52	11	5	123	46.6%	-1.8%
	3 清拭援助を通して、患者の観察ができる	I	61.8%	I~III	100.0%	76	45	2	0	123	71.6%	-9.8%
	4 洗髪援助を通して、患者の観察ができる	I	39.8%	I~III	97.6%	49	54	17	3	123	41.4%	-1.5%
	5 口腔ケアを通して、患者の観察ができる	I	42.3%	I~III	99.2%	52	46	24	1	123	44.0%	-1.7%
	6 患者が身だしなみを整えるための援助ができる	I	69.1%	I~III	99.2%	85	34	3	1	123	76.5%	-7.4%
	7 持続静脈内点滴注射を実施していない臥床患者の寝衣交換ができる	I	52.0%	I~III	98.4%	64	49	8	2	123	47.8%	4.2%
	8 入浴の介助ができる	II	91.9%	I~III	99.2%	27	86	9	1	123	76.5%	15.3%
	9 陰部の清潔保持の援助ができる	II	97.6%	I~III	100.0%	47	73	3	0	123	96.6%	1.0%
	10 臥床患者の清拭ができる	II	93.5%	I~III	98.4%	59	56	6	2	123	95.7%	-2.2%
	11 臥床患者の洗髪ができる	II	53.7%	I~III	84.6%	16	50	38	19	123	42.2%	11.4%
	12 意識障害のない患者の口腔ケアができる	II	44.3%	I~III	68.9%	24	30	30	38	122	38.3%	6.0%
	13 患者の病態・機能に合わせた口腔ケアを計画できる	II	76.4%	I~III	88.6%	32	62	15	14	123	77.4%	-1.0%
	14 持続静脈内点滴注射実施中の患者の寝衣交換ができる	II	75.4%	I~III	98.4%	19	73	28	2	122	79.1%	-3.7%
	15 沐浴が実施できる	II	86.9%	I~III	98.4%	35	71	14	2	122	77.6%	9.3%
6. 呼吸・循環を整える技術	1 酸素吸入療法を受けている患者の観察ができる	I	15.4%	I~III	84.6%	19	58	27	19	123	25.0%	-9.6%
	2 患者の状態に合わせた温療法・冷療法が実施できる	I	21.1%	I~III	80.5%	26	45	28	24	123	32.5%	-11.3%
	3 患者の自覚症状に配慮しながら体温調節の援助ができる	I	39.0%	I~III	92.7%	48	52	14	9	123	60.3%	-21.3%
	4 末梢循環を促進するための部分浴・電法・マッサージができる	I	29.5%	I~III	85.2%	36	55	13	18	122	41.4%	-11.9%
	5 酸素吸入療法が実施できる	II	17.1%	I~III	69.1%	3	18	64	38	123	18.3%	-1.2%
	6 気道内加湿ができる	II	13.0%	I~III	48.0%	2	14	43	64	123	12.2%	0.8%
	7 モデル人形で、口腔内・鼻腔内吸引が実施できる	III	88.6%	I~III	88.6%	8	38	63	14	123	98.3%	-9.7%
	8 モデル人形で、気管内吸引ができる	III	91.9%	I~III	91.9%	6	41	66	10	123	98.3%	-6.4%
	9 モデル人形あるいは学生間で体位ドレナージを実施できる	III	96.7%	I~III	96.7%	18	45	56	4	123	98.3%	-1.5%
	10 酸素ボンベの操作ができる	III	76.4%	I~III	76.4%	5	24	65	29	123	76.5%	-0.1%
	11 気管内吸引時の観察点がある	IV	100.0%	IV	100.0%	22	46	36	19	123	100.0%	0.0%
	12 酸素の危険性を認識し、安全管理の必要性がある	IV	100.0%	IV	100.0%	35	36	22	30	123	100.0%	0.0%
	13 人工呼吸器装着中の患者の観察点がある	IV	100.0%	IV	100.0%	20	39	28	35	122	100.0%	0.0%
	14 低圧胸腔内持続吸引中の患者の観察点がある	IV	100.0%	IV	100.0%	9	23	21	70	123	100.0%	0.0%
	15 循環機能のアセスメントの視点がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	48	65	2	8	123	100.0%	0.0%
7. 創傷管理技術	1 患者の褥創発生の危険性をアセスメントできる	I	53.7%	I~III	96.7%	66	48	5	4	123	78.1%	-24.4%
	2 褥創予防のためのケアが計画できる	II	90.2%	I~III	95.1%	44	66	6	6	122	91.2%	-1.1%
	3 褥創予防のためのケアが実施できる	II	86.0%	I~III	96.7%	28	76	13	4	121	82.5%	3.5%
	4 患者の褥創の観察ができる	II	85.4%	I~III	94.3%	43	62	11	7	123	76.7%	8.6%
	5 学生間で基本的な包帯法が実施できる	III	87.8%	I~III	87.8%	26	41	41	15	123	91.3%	-3.5%
	6 創傷処置のための無菌操作ができる(ドレーン類の挿入部の処置も含む)	III	83.7%	I~III	83.7%	10	29	64	20	123	90.4%	-6.7%
	7 創傷処置に用いられる代表的な消毒薬の特徴がある	IV	100.0%	IV	100.0%	18	35	24	45	122	100.0%	0.0%
8. 与薬の技術	1 経口薬(パルサル錠・内服薬・舌下錠)の服薬後の観察ができる	II	54.5%	I~III	74.0%	19	48	24	32	123	61.2%	-6.7%
	2 経皮・外用薬の投与前後の観察ができる	II	61.2%	I~III	79.3%	23	51	22	25	121	56.9%	4.3%
	3 直腸内与薬の投与前後の観察ができる	II	30.3%	I~III	49.2%	9	28	23	62	122	21.9%	8.4%
	4 点滴静脈内注射を行っている患者の観察点がある	II	89.4%	I~III	95.9%	50	60	8	5	123	84.2%	5.2%
	5 モデル人形に直腸内与薬が実施できる	III	35.0%	I~III	35.0%	3	10	30	80	123	28.3%	6.6%
	6 点滴静脈内注射の輸液の管理ができる	III	92.6%	I~III	92.6%	13	43	57	9	122	89.7%	3.0%
	7 モデル人形または学生間で皮下注射が実施できる	III	85.4%	I~III	85.4%	5	40	60	18	123	90.5%	-5.2%

	8	モデル人形または学生間で筋肉内注射が実施できる	III	89.3%	I~III	89.3%	5	39	64	13	121	91.3%	-2.0%
	9	モデル人形に点滴静脈内注射が実施できる	III	87.6%	I~III	87.6%	4	39	63	15	121	93.1%	-5.5%
	10	輸液ポンプの基本的な操作ができる	III	77.2%	I~III	77.2%	6	32	57	28	123	75.0%	2.2%
	11	経口薬の種類と服用方法がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	30	44	19	30	123	100.0%	0.0%
	12	経皮・外用薬の与薬方法がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	30	40	20	33	123	100.0%	0.0%
	13	中心静脈内栄養をうけている患者の観察点がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	21	43	17	42	123	100.0%	0.0%
	14	皮内注射後の観察点がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	22	38	24	38	122	100.0%	0.0%
	15	皮下注射後の観察点がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	23	39	26	35	123	100.0%	0.0%
	16	筋肉内注射後の観察点がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	24	34	26	38	122	100.0%	0.0%
	17	静脈内注射の実施方法がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	23	33	41	26	123	100.0%	0.0%
	18	薬理作用をふまえた静脈内注射の危険性がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	24	38	24	37	123	100.0%	0.0%
	19	静脈内注射実施中の異常な状態がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	25	42	15	39	121	100.0%	0.0%
	20	抗生物質を投与されている患者の観察点がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	15	53	14	41	123	100.0%	0.0%
	21	インシュリン製剤の種類に応じた投与方法がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	21	41	34	26	122	100.0%	0.0%
	22	インシュリン製剤を投与されている患者の観察点がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	23	54	17	29	123	100.0%	0.0%
	23	麻薬を投与されている患者の観察点がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	15	42	17	49	123	100.0%	0.0%
	24	薬剤等の管理(毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤を含む)方法がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	21	34	45	23	123	100.0%	0.0%
	25	輸血が生体に及ぼす影響をふまえ、輸血前・中・後の観察点がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	14	32	27	49	122	100.0%	0.0%
9. 救命救急処置技術	1	緊急なことが生じた場合にはチームメンバーへの応援要請ができる	I	17.1%	I~III	63.4%	21	24	33	45	123	21.7%	-4.7%
	2	患者の意識状態を観察できる	II	78.7%	I~III	91.0%	47	49	15	11	122	74.8%	3.9%
	3	モデル人形で気道確保が正しくできる	III	93.5%	I~III	93.5%	40	28	47	8	123	98.3%	-4.8%
	4	モデル人形で人工呼吸が正しく実施できる	III	95.9%	I~III	95.9%	42	29	47	5	123	97.4%	-1.5%
	5	モデル人形で閉鎖式心マッサージが正しく実施できる	III	95.1%	I~III	95.1%	44	27	46	6	123	96.6%	-1.4%
	6	除細動の原理がわかりモデル人形にAEDを用いて正しく実施できる	III	97.6%	I~III	97.6%	49	25	46	3	123	99.1%	-1.6%
	7	意識レベルの把握方法がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	61	33	21	6	121	100.0%	0.0%
	8	止血法の原理がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	44	40	26	13	123	100.0%	0.0%
10. 症状・生体機能管理技術	1	バイタルサインが正確に測定できる	I	86.2%	I~III	99.2%	106	15	1	1	123	91.3%	-5.1%
	2	正確に身体計測ができる	I	41.3%	I~III	87.6%	50	41	15	15	121	44.8%	-3.5%
	3	患者の一般状態の変化に気づくことができる	I	44.3%	I~III	99.2%	54	66	1	1	122	62.9%	-18.7%
	4	系統的な症状の観察ができる	II	95.1%	I~III	98.4%	51	66	4	2	123	96.5%	-1.4%
	5	バイタルサイン・身体測定データ・症状などから患者の状態をアセスメントできる	II	99.2%	I~III	99.2%	73	49	0	1	123	99.1%	0.1%
	6	目的に合わせた採尿の方法を理解し、尿検体の正しい取り扱いができる	II	30.3%	I~III	63.1%	9	28	40	45	122	25.2%	5.1%
	7	簡易血糖測定ができる	II	37.7%	I~III	92.6%	22	24	67	9	122	44.3%	-6.6%
	8	正確な検査が行なえるための患者の準備ができる	II	59.0%	I~III	86.1%	14	58	33	17	122	50.0%	9.0%
	9	検査の介助ができる	II	45.5%	I~III	78.9%	13	43	41	26	123	31.0%	14.5%
	10	検査後の安静保持の援助ができる	II	45.5%	I~III	75.6%	13	43	37	30	123	39.1%	6.4%
	11	検査前、中、後の観察ができる	II	51.6%	I~III	77.9%	14	49	32	27	122	43.5%	8.2%
	12	モデル人形または学生間で静脈血採血が実施できる	III	77.2%	I~III	77.2%	9	30	56	28	123	84.5%	-7.2%
	13	血液検査の目的を理解し、目的に合わせた血液検体の取り扱いがわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	16	28	39	40	123	100.0%	0.0%
	14	身体侵襲を伴う検査の目的・方法、検査が生体に及ぼす影響がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	24	42	14	43	123	100.0%	0.0%
11. 感染予防技術	1	スタンダード・プリコーション(標準予防策)に基づく手洗いが実施できる	I	89.4%	I~III	99.2%	110	12	0	1	123	100.0%	-10.6%
	2	必要な防護用具(手袋、ゴーグル、ガウン等)の装着ができる	II	99.2%	I~III	100.0%	108	14	1	0	123	97.4%	1.8%
	3	使用した器具の感染防止の取り扱いができる	II	95.9%	I~III	99.2%	83	34	4	1	122	94.8%	1.1%
	4	感染性廃棄物の取り扱いができる	II	97.5%	I~III	100.0%	97	22	3	0	122	97.4%	0.1%
	5	無菌操作が確実にできる	II	68.3%	I~III	95.9%	31	53	34	5	123	71.7%	-3.4%
	6	針刺し事故防止の対策が実施できる	II	51.2%	I~III	92.7%	35	28	51	9	123	57.4%	-6.2%
	7	針刺し事故防止後の感染防止の方法がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	36	29	27	30	122	100.0%	0.0%
12. 安全管理の技術	1	インシデント・アクシデントが発生した場合には、速やかに報告できる	I	35.0%	I~III	65.9%	43	18	20	42	123	46.1%	-11.1%
	2	災害が発生した場合には、指示に従って行動がとれる	I	23.0%	I~III	46.7%	28	14	15	65	122	31.9%	-8.9%
	3	患者を誤認しないための防止策を実施できる	I	54.5%	I~III	93.5%	67	24	24	8	123	64.7%	-10.2%
	4	患者の機能や行動特性に合わせて療養環境を安全に整えることができる	II	91.1%	I~III	97.6%	68	44	8	3	123	93.1%	-2.0%
	5	患者の機能や行動特性に合わせて転倒・転落・外傷予防ができる	II	95.1%	I~III	99.2%	61	56	5	1	123	94.8%	0.3%
	6	放射線曝露の防止のための行動がとれる	II	36.9%	I~III	54.1%	15	30	21	56	122	39.7%	-2.8%
	7	誤薬防止の手順にそった与薬ができる	III	84.6%	I~III	84.6%	16	26	62	19	123	80.9%	3.7%
	8	人体へのリスクの大きい薬剤の暴露の危険性および予防策がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	20	31	27	45	123	100.0%	0.0%
13. 安全確保の技術	1	患者の状態に合わせて安楽に体位を保持することができる	II	92.7%	I~III	99.2%	45	69	8	1	123	92.2%	0.4%
	2	患者の安楽を促進するためのケアができる	II	94.3%	I~III	99.2%	50	66	6	1	123	93.1%	1.2%
	3	患者の精神的安寧を保つための工夫を計画できる	II	92.7%	I~III	100.0%	48	66	9	0	123	87.1%	5.6%
赤十字災害看護学における追加項目	1	心のケアができる	III	47.2%	I~III	47.2%	17	22	19	65	123	50.9%	-3.7%
	2	トリアージタグの取り扱いができる	II	18.7%	I~III	39.8%	6	17	26	74	123	48.3%	-29.6%
	3	トリアージができる	II	13.0%	I~III	35.8%	3	13	28	79	123	41.4%	-28.4%
	4	担架による患者搬送ができる	II	21.1%	I~III	58.5%	6	20	46	51	123	29.3%	-8.2%
	5	三角巾による傷の手当ができる	II	53.7%	I~III	90.2%	24	42	45	12	123	56.9%	-3.2%
	6	救助所の設営方法がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	7	26	24	66	123	100.0%	0.0%
				71.9%		90.3%						73.1%	-1.2%

※薄黄色塗りつぶし…前年度と比較して増加を認めた項目

青字…前年度と比較して20%以上30%未満の低下を認めた項目

赤字…前年度と比較して30%以上の低下を認めた項目(令和4年度はなし)